

国内事業を再整備

パンチ工業

代表取締役社長 森久保 哲司氏



もりくぼ・てつじ

1977年生まれ、東京都出身。2002年明治大学政治経済学部卒業後、03年パンチ工業入社、15年パンチ・インダストリー・マレーシア代表取締役、18年パンチ工業取締役、19年副社長、同年社長に就任、現在に至る。

パンチ工業（東京都品川区、03・68893・

8007）は今年、2025年3月期までの中期経営計画を発表し、最重要施策として「国内事業の再整備」を掲げた。販売拠点の統廃合や、連結子会社の解散などによる経営合理化を図り、特注品やFA事業の強化に取り組み。森久保哲司社長に狙いや、今後の展開などを聞いた。

国内事業を再整備する狙いは。 移管する。強調したいのは、国内事業を縮小する

降、国内事業は採算が取れていない状態が続いている。この要因は採算性の低いカタログ品の生産を国内工場を抱えていたこと。現在遂行している国内事業の再整備は国内工場で付加価値の高い特注品に注力することがテーマだ。一方、カタログ品はベトナムや中国に生産

特注品とFA事業に力

高付加価値分野取り込む

加えて、高付加価値分野の需要も取り込んでいくための施策とということだ。

特注品の市場性は。 まだ伸びると考えている。今後、労働人口が減っていく中で、お客様も

従来のように内製するの

が難しくなるはず。当社であれば、数量問わず柔軟に対応できる。工場の負荷が高いとき、協力工場の一つとして使ってもらいたい。また、特注品はお客様によって仕様や要件が異なるため、すり合わせが重要となる。テストや打ち合わせを繰り返す。

インド市場の開拓を進める。当社は10年から進出しているが、金型は輸入が多く、販売できるのはメンテナンス部品ぐらいだった。ただ、ここ数年で徐々に金型生産量が増えており、30年には金型部品市場は倍増する見込みだという。事業拡大に向けて、協力工場の開拓や、販売製品の見直しなどに取り組む。

目指す姿は。

返し、安心して切り替えてもらえるような営業活動を展開している。

海外工場への生産移管はどのように進めるか。

まずはベトナム工場

で、パンチやダイなどのプレス部品の「カタログ

品」（3日目発送）の生産

この人に聞く 2023

品目を拡大する。来年度中までに予定している追加品目の移管を完了させる予定だ。その後、プラスチック金型部品に広げていく。一方、中国・大連工場には納期の長い製品を移管する。ただ、中国は地政学的リスクが高まっており、注視する必要がある。今後、中国からの生産移管も検討していくつもりだ。

FA事業は。

大きく育てていきたい。昨年子会社化したFA機器の設計、製造を手掛けるASCE（札幌市白石区）とともに事業を強化する。25年3月期までに売上高32億円を目指す。

今後の海外展開は。